

仙台市議会活動報告

くろまつ

発行人

仙台市議会議員(若林区)
相沢 和紀
(社民党仙台市議団所属)

〔事務所〕

仙台市若林区上飯田2丁目3-63
TEL(兼FAX)022-781-0650

〔HPアドレス〕

http://www.k5.dion.ne.jp/~a_kazu/

住宅再建こそが地域再生の鍵

東日本大震災から約3年4ヶ月が過ぎました。本市は復興計画期間を5年と定め、全力で取り組んできました。特に公営復興住宅の建設は、12年度に12戸、13年度には564戸の整備を終え、500世帯を超える方が新たな生活をスタートさせています。そして残る戸数の多くが今年度末に完成することから、2,447戸について一括して募集業務を開始しています。また、防災集団移転地の造成に関しても、本市施工分の7団地と土地区画整理地内6団地の予定宅地733区画中、6月末時点で416区画が決定し、今後も順次決定される予定です。来春には建築可能となっています。更に浸水区域の被災者が独自に宅地開発を進めている2団地36区画も年度内完成に向けて造成中です。



仮設住宅とみなし仮設住宅は1万2千世帯から8千世帯に減少しており、生活再建が進んでいるように映ります。しかし、これからが問題です。未だに住宅再建等“自立”に目途が立たない方の事情などを再度把握し、行政として可能な支援策を講じていかなければならないと考えます。

今後も地元若林区生まれの議員として精一杯頑張る決意です。

これからの主な日程

7月30日(水)

- ・エネルギー政策調査特別委員会

8月9,10日

- ・六郷スポ少「サマーキャンプ」

8月20日(水)

- ・「はだしのゲン」上映会(市福祉プラザ)
- ・佐高信政治塾③ 講師：北原みのり

8月21日(木)

- ・健康福祉常任委員会

8月26日(火)

- ・議員団研修会「国民健康保健制度」

8月28日(木)

- ・市農業委員会(農地部会)

9月5日(金)

- ・第3回定例会(～10月8日)
- ・ハートフル六郷「六郷お月見会」

◎ 政務活動費(2013年度)の報告

社民党仙台市議団(5名)に対する交付額は2,100万円(35×5×12)。議長調査を経て一部修正し、収支報告書を提出しました。総支出額は21,089,406円となり、私の管理分(360万円)については3,685,855円の支出となりました。もちろん、規約等に則り、全ての支出については領収書など証明する資料を添付しています。

ミズのささやき

◆ 人類の誕生を神によって創られたアダムとイブとするキリスト教的歴史や神武天皇から始まることされる日本の「皇紀」も信じる人はいないと思う。200年ほど前から地球規模の発掘や科学の発展によって、47億年前の太陽系誕生、そして数百万年前に遡る“人類”の歴史が明らかになっている。◆ その人類は、生産活動を通じ社会を発展させてきた。時に戦争を生み出したが、その反省から多くの教訓を残してきた。◆ 日本国憲法もその一つである。◆ 戦後69年、今の繁栄は“平和”の産物である。その平和が危機にある。◆ 特定秘密保護法、武器輸出3原則の見直し、日本版NSCの設置、そして、憲法の解釈変更による「集団的自衛権の行使」容認。…◆ 歴史の流れをねじ曲げようとする裏には、国民を犠牲にしても「欲望」を追求する資本主義の本質が見えてくる。

第2回定例会代表質疑

復興財源の課題や高校入試問題など

第2回定例会（6月11日～26日）は、一般会計補正予算（案）や子育て関連条例など28議案を可決しました。特に補正予算では、地下鉄東西線の開業を前にIC乗車券導入に伴う整備費や予防接種、景気対策に対する予算措置などが計上されました。また、バス路線の再編（案）に対する質疑も多く出された議会でした。

相沢議員は、社民党仙台市議団として代表質疑に立ち、復興交付金の確保状況と今後の対応、危険区域の設定の条件となった海岸防潮堤の整備状況と市の対応、緑の再生の一助としての生垣づくり助成の拡大、名取川に新たな橋梁建設の必要性、更に高校入試の問題などについて質しました。

（質疑の要点のみを整理して記載しました）

復興事業の財源確保に全力を！ 独自財源の使途を明確にし、市民の理解を

相沢 政府は復興財源として25兆円を確保し、交付を行ってきている。すでに交付額は21兆円を超えており、残る財源は少ない。本市は9次の合計1,918億円余を申請し、8次までの交付額は1,582億円余となっている。この評価と今後の事業推進にあたり財源確保をどのようにしていく考えか伺う。

市長 これまでのところ、本市の復興事業に必要な経費はおおむね認められていると考えているが、被災地全体の復興は途上にある。被災自治体の一日も早い復興を実現するため、他自治体と共に国に対して働きかけを行っていく。

相沢 復興財源の中に市民県民税均等割り税額の引き上げが盛り込まれ、今年から10年間続く。本市の場合に例をとれば、市民税分500円で10年間、対象者は約50万人。総額は25億円程になる。国の補助をしっかりと受けた上で、納税者（市民）が納得できるよう増収分の使途を明確に示すべきと考えるが、いかがか。

当局 個人市民税増収分は、避難所の備蓄資機材整備や公共施設の耐震性や防災機能強化、災害時に対応できる自家用給油取扱所整備など地域防災計画に沿って進める事業に活

用することとし、市民にお示しできるようにしていきたい。

防潮堤整備と今後の対応を問う

相沢 海岸防潮堤の整備が進んでいるが、海岸線約10キロのうち、名取川の北側約3キロについては未だに着工していない。防潮堤の整備は津波シミュレーションの前提条件であり、整備が出来ないとなれば“危険区域”設定や被災者支援のありかたが根底から覆る。国の対応がどのようになっているのか伺う。

当局 現在、国は砂州の回復状況などモニタリングを行っており、環境配慮の観点から学識経験者等の意見を含め、本市の復興計画との整合性に留意し、防潮堤の構造を含め検討していると伺っている。本市としては、15年度の完成を目指し計画通りに整備されると理解している。津波シミュレーションや災害危険区域の見直しは考えていない。

相沢 防災集団移転先の宅地造成が進み、宅地申し込みが行われているが、事前の意向調査と異なり申し込みが少なく、結果として残区画が生じる懸念が出ている。国の補助事業であり、申し込み条件は“災害危険区域”であることが絶対条件である。浸水区域などの被災者から相談などを受けているが、今後どのように対応していくのか伺う。

当局 移転される方々の意向を確認して必要な宅地数を整備・確保してきたが、その後の世帯状況の変化などにより、他の再建方法に変更された方もあり、申し込みの無い宅地が生じている。災害危険区域の方で住宅再建の方針をまだ決めていない方もいることから、移転先宅地に関する情報提供を行い、住宅再建を促進していく。最終的には国との協議が必要と考えている。



未整備の防潮堤（若林区藤塚）

を提言



代表質疑

バス路線再編(案) 行政サービスの切り捨てはダメ

相沢 バス路線の再編について、各区そして連合町内会単位での説明会を開催してきているが、多くの要望が出ていると認識している。多くの課題があるが行政サービスの点で伺う。住民サービスが各区役所に集中している現状にあって、市が経営し、市が計画する中において若林区役所等への接続路線がなくなることは大きな問題である。再検討を求める。

交通局 1回目の説明会では、支所の廃止の際、区役所への乗り換えなしの足として設定した系統の一部を廃止(案)とした。これらの系統は利用が極めて少ない状況であり、乗換えで代替可能と判断した。質問の趣旨の意見も複数頂いていますことから、今後検討していく。

緑の再生=生垣づくり助成の拡充を求める

相沢 緑の再生については、「居久根」の再生など中心に強く求めてきた。当局は、時間限定で浸水被害のあった地域を生垣助成のエリアに追加した。評価する一方で、市街化区域と浸水区域との中間エリアが対象から除外とされた。農家住宅としての建築も見られることから、市域全体に広げるべきと考える。条件として今回の被害判定で「全壊および大規模半壊」に限定してでも追加すべきと考えるが、いかがか。

当局 本市では、杜の都にふさわしい緑豊かな街並みを形成するため生垣づくりの助成を行ってきた。しかし、浸水区域以外のところは従前より緑が残っているし、従前から住まいの方とで公平性の面から区域拡大は困難と判断した。なお、NPO団体等の活動と連携して多角的な支援に繋げていく。

「15の春」を憂い、入試制度の見直しを!

相沢 「二段階選抜」という公立高校入試制度は2年が経過し、見直しが検討されている。最大の問題は“不合格”者を多数生んでいることであり、特に仙台圏の競争倍率は約

3倍にもなる。そして“不合格”とされた生徒は後期試験では“合格”できる学力を有している実態であり、「15の春」に暗い影を落としている問題を指摘する。生徒ばかりか保護者、そして教員を含めて心を痛めている。市教委としてどのように感じ、この間どのように対応してきたのか伺う。

教育局 二段階選抜の導入は、本市教育委員会や中学校長会もメンバーとする高等学校入学選抜審査会での審議を経て決定されてきた。導入にあたっては生徒や保護者を中心とした県民意識調査を実施し、より公正な選抜とするため、推薦入試制度から前期選抜に変えてきた。また、前期選抜では、市内の倍率が高いため不合格者が増える状況にあると認識している。

相沢 前期募集枠が10%増えても、生徒を確保したい学校側が「調査書点」の基準点を下げることが予想され、“不合格者”は減らない。完全な公平性が確保できない現行制度を廃止すべきと考えるが、いかがか。

教育局 今年度が3回目となる。受験した生徒等の状況を見極めたいうえで、様々な角度から慎重な対応を行う必要があると考えており、引き続き県教育委員会と連携のうえ、検討して行く。



前期選抜答案用紙

市域全体を俯瞰した道路網の整備を

相沢 復興の先を見据えた仙台のまちづくりが重要と考える。先にも求めたが、名取川への新たな橋梁を掛け、大災害時の人命および物流の安全確保を含めて東部地域の道路網を整備すべきと考える。過去のいきさつや近視眼的なその場しのぎではない、市域を俯瞰した道路行政を求める。

当局 人口減少や少子高齢化などを見据え、公共交通を中心としたまとまりのある市街地形成を図ることとしている。東部地域の南北をつなぐ幹線道路としては4号バイパス、仙台東部道路、そして塩釜亘理線があり、これらの道路により将来の交通処理にも対応できると考えている。

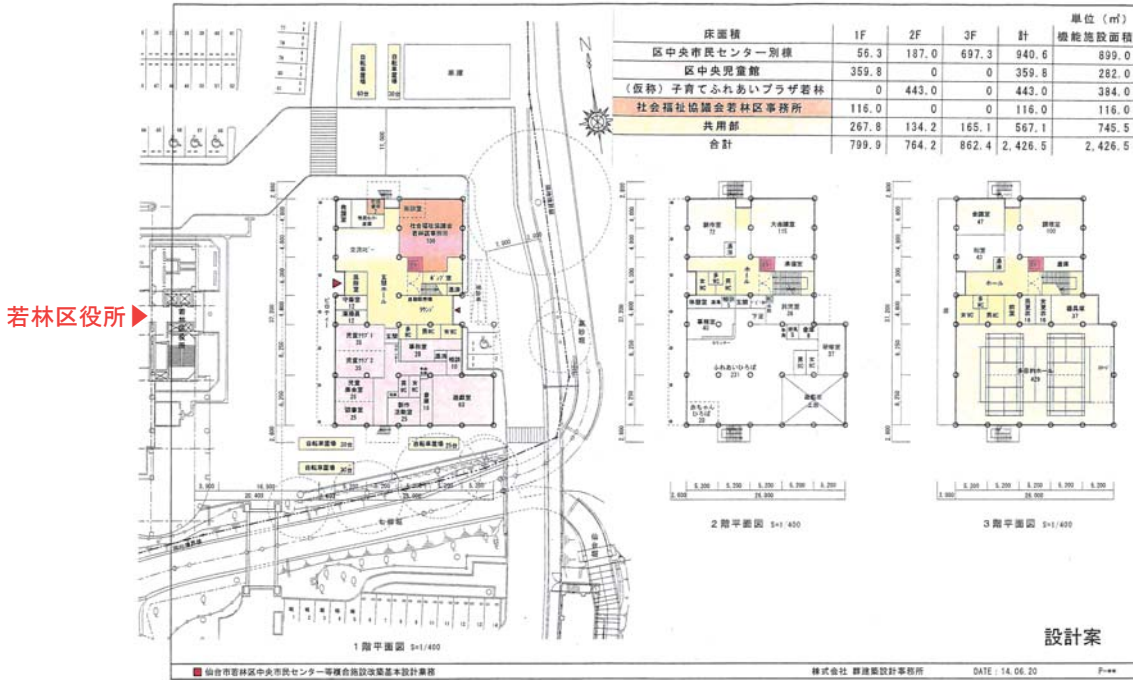
区子育て中核施設の基本設計固まる

(仮)子育てふれあいプラザ若林、若林区中央児童館、そして区中央市民センター別棟などが入る新施設の基本設計が固まりました。

現在の建物は、養種園管理事務所として建設され、区役所整備に併せ、七郷に農業園芸センターとして移転したことから市民センター別棟、更に児童館な

どとして利用されてきました。老朽化と新たに区ごとに整備されることとなった子育てふれあい施設の建設などから新築整備されることとなりました。

新施設は、区役所庁舎の東側駐車場に建設されます。15年度末開館予定で、その後解体され、駐車場として整備される予定です。



▶▶ 各地で復旧、そして復興へ ◀◀



水田の復興 (井土地区、1ha 区画の圃場)



生活道路の拡幅整備 (上飯田2丁目)



生活道路の歩道整備 (沖野4丁目)



東六郷地区住民の宅地開発 (六郷地内)